

## 第8回青森県人づくり戦略推進会議

日 時：平成27年2月19日（木）

15：30～17：00

場 所：青森国際ホテル 3階 孔雀の間

（司会：若木課長）

皆様、本日はお忙しい中ご出席を賜りましてありがとうございます。

私、本日の会議の司会を務めます、県の地域活力振興課の若木と申します。どうぞよろしく願いいたします。会議に先立ちまして、配付資料の確認をさせていただきたいと思っております。次第と裏面に出席者名簿、席図、資料1「次代を切り拓く人財の育成一人は財だ！青森県一」、資料2「未来ひらめき創造塾」、資料3-1「第11回日本の次世代リーダー養成塾」、資料3-2「日本の次世代リーダー養成塾参加レポート～私の人生の分岐点～」、資料4-1「あおり立志挑戦塾」、資料4-2「あおり立志挑戦の会」、資料5「奥入瀬サミット2014」、資料6「グローバル人財養成セミナー」、それから、参考資料といしまして、「青森県人づくり戦略推進会議設置要綱」、当課で作成いたしました「高校生のキャリアづくり応援マガジン「Y E E L」第4号」、「あおり絆カンパニー ～人を大切にする16社のStory～第3号」、「第11回日本の次世代リーダー養成塾報告書」となっております。配付漏れ等はありませんでしょうか。

よろしければ、定刻となりましたので、ただ今から「第8回青森県人づくり戦略推進会議」を開会いたします。

開会にあたりまして、本会議の議長でございます、三村知事よりご挨拶を申し上げます。

（三村知事）

皆さん、本日はお忙しい中、第8回青森県人づくり戦略推進会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

皆様には、日ごろから県政の推進にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げる次第でございます。

さて、私共日本の国は、急速な少子化・高齢化の進行や人口減少の対応といったと大きな課題に直面をいたしております。特に地方におきましては、これらの問題の影響は深刻であり、しっかりと対応していく必要があると考えております。

県では、全国の中でも早いスピードで人口減少や少子高齢化が進む本県の状況を踏まえ、平成18年度から人口減少社会に対応するための施策に取り組んで参りましたが、現在、国が進める人口減少を克服し、地方創生を成し遂げるための取組にも的確に対応し、本県

の元気づくりを進めていくことといたしております。

こうした様々な課題は、後ろ向きに捉えるのではなく、むしろ成長のチャンスと捉えて積極果敢に挑戦し、本県が持つ、豊かで個性溢れる資源を活用した地域づくりを更に進めていくことが重要となるものと考えております。

私は、青森の「未来を変える」ために何よりも重要なことは、本県の「未来」を担っていく若者や地域産業、地域おこしの担い手など、「未来」をつくる人財の育成であると確信をいたしております。

この会議は、こうした思いのもと、人財育成に向けた気運醸成と関係機関の連携強化を目的に開催するものでございまして、本日は、県の人財育成の取組についてご紹介を申し上げますとともに、「日本の次世代リーダー養成塾」に参加した県立青森南高等学校の古川さん、「あおもり立志挑戦の会」の会長、秋元さんと卒塾生の皆さん、また「奥入瀬サミット」に参加した武田さんから体験談、活動状況について発表していただきたいと思っております。

その後、本日ご出席の皆様方と発表者の方々を交え、「次代を切り拓く人財の育成」について意見交換を行うこととしております。

本日の会議を契機といたしまして、産・学・官・金融の関係機関が更に一体となって人財育成に取り組み、「人づくりの先進地青森」を目指していきたいと考えております。

青森県の「今」と「未来」のために、今後とも、皆様とともに果敢に取り組んでいきたいと考えておりますので、何卒、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

突然、ジャンルの違う話になってしまいますが、「青天の霹靂」というお米、ご存じでしょうか。今日、コメの食味ランキングで県産米初の「特A」評価をいただくことができました。これからも、しっかりと戦略を立てて、人財育成と同じように、この農業分野でも戦えるという気持ちになっております。皆様にお伝えしたいという気持ちから、報告させていただきました。本当にありがとうございます。

(司会：若木課長)

ありがとうございました。

知事から嬉しいお知らせもあったところでございますが、ここからの進行は、会議の設置要綱に従いまして、知事にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(三村知事)

それでは、次第に従い、(1) 人財育成に係る取組の紹介についての発表をお願いいたします。

(小山内企画政策部長)

県の企画政策部長の小山内でございます。私から人財育成の取組をご紹介します。

本県には豊かな自然、その自然が育む安全・安心で美味しい農林水産物、伝統的な祭りや先人から受け継いできた固有の文化など、全国に誇ることのできる多様で個性的な地域資源が沢山ございます。

この豊かな地域自然を生かした地域づくりを進めていく上で、何よりも重要なのは人財の育成であり、人財の育成こそが未来の青森県づくりの基盤であります。

そこで県では、平成18年、人づくり戦略チームを設置し、未来を担う子ども達や地域の担い手の育成に重点的に取り組んできました。

さらに、昨年度からは人づくり戦略チームを地域活力振興課に発展させ、人づくり、生業づくり、地域づくりを一体的に推進しているところです。

「あおもりの未来をつくる人財の育成」では、子ども達が青森の将来を担う人財としてたくましく成長していくことを目指し、小・中・高・大、それぞれの成長段階に応じたキャリア教育の推進に教育委員会と連携しながら取り組んでいます。

これまで、教育委員会においては、小・中・高校生を対象としたキャリア教育プログラムの開発などに取り組んできたほか、「キャリア教育の指針」を策定するとともに、学校と企業等を結ぶ仕組みである「教育支援プラットフォーム」の構築などにも取り組んでいます。

さらに平成26年度からは、地域企業と連携したキャリア教育の実践や家庭における意識啓発など、学校・地域・家庭におけるキャリア教育の一層の充実を図っています。

また、高校生にとって身近な存在である大学生からの働き掛けにより、高校生のやる気や意欲を引き出すためのワークショップ、高大連携キャリアサポート推進事業にも長く取り組んでおります。

そのほか、県内外の様々な分野で活躍する方々に、職業に就いたきっかけややりがいなどを高校生自らがインタビューしてまとめた冊子「YELL（エール）」を作成し、県内の高校1年生全員に配布しております。

これらの取組に加え、郷土出身の先輩による社会人講話、医学科進学を目指す高校生の実力養成、ものづくり人財の育成など、未来を担う人財の育成に県を挙げて取り組んでいるところです。

こうしたキャリア教育の充実に加え、将来のリーダーとなる中高生向けの事業として、「未来ひらめき創造塾」、「日本の次世代リーダー養成塾」なども実施しています。

次に「あおもりの今をつくる人財の育成」では、地域の個性を活かし、起業・創業、地域おこしに果敢に挑戦する人財の育成に取り組んでいます。

1つ目が「あおもり立志挑戦塾」です。そして2つ目は「奥入瀬サミット」。3つ目は「グローバル人財養成セミナー」です。これらの地域活力振興課が主催する事業については、本日事例発表者としてお越しいただいている参加者の皆さんからのご報告も交えながら、この後、詳しいご説明をさせていただきます。

このほかにも、「若手農業トップランナー塾」や「浜のマネージャー塾」などの取組を通じ、意欲ある若手農業者や漁業者など、本県の農林水産業を支える人財の育成に取り組んでいます。

また、地域資源などを活かした創業・起業を積極的に支援するための「あおり発ベンチャー大賞」の開催や創業希望者を支援するための拠点づくり、各分野で育成した人財の横断的なネットワークの形成と更なるパワーの発揮に向けて交流会の開催なども行っているところです。

さらに、県庁職員自身のアイデア、チャレンジ意欲と貢献意欲を引き出すための取組として、今年度、グッドデザイン賞などを受賞した「あおり食命人」や、「だし活」事業など、若手職員が自ら企画立案した事業を自らが実施する制度である「庁内ベンチャー制度」や部局の垣根を越えた若手中堅職員育成のための「庁内寺子屋プロジェクト推進事業」を実施しています。

以上、本県の人財育成の取組に関する概要についてご説明して参りました。

人づくりは百年の大計であり、県民総ぐるみで人財育成に取り組んでいく必要があります。そして、自由な発想で様々なことにチャレンジする人財が数多く生まれることで、地域が元気になり、元気な地域が更に人財を呼び込み新たな人財を育て、益々地域が元気になっていくという人財育成の好循環をつくっていきたいと考えています。

県としては、今後も引き続き人財育成を県政運営の基本に掲げ、力を入れて取り組んでいきたいと考えております。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

以上であります。

(三村知事)

ご苦勞様でございました。

それでは、続いて、未来ひらめき創造塾につきまして、発表をお願いします。

(人づくりグループ 成田主査)

地域活力振興課の成田と申します。私の方からは、第2回未来ひらめき創造塾の開催概要をご説明いたします。

未来ひらめき創造塾というのは、県内の中学生を対象にしたサマースクールです。塾長は、JAXAの川口淳一郎先生に務めていただいております。今年度は、3泊4日のうち、1日を除いて、ほぼ全ての取組を熱心にご覧いただいたところです。特徴といたしましては、生徒と教師が共に創造力を磨くということで、塾の中では、現場の教師の方にも来ていただいて生徒の自由な発想を引き出すといった取組を行っています。

第2回の開催概要ですが、7月30日から8月2日まで3泊4日で実施いたしました。県内中学生24名が参加したところです。カリキュラムはご覧のとおりとなっておりますが、今日は主な取組を3つ、この中からピックアップしてご説明いたします。

まず1つ目ですが、「おみやげづくり」ということで、限られた予算の中で「売れる青森のお土産」を作るといった取組を行いました。

4つのグループに分かれて、塾生自らが材料を購入して調理も行いました。中身だけではなく、パッケージも中学生が自分達で考えて作り、できたお土産のセールスポイントなどをプレゼンテーションして、最優秀を競いました。

最優秀を取ったのは、煮たりんごをスタミナ源たれで味付けしたものを包んだ饅頭「たれまる」を提案したグループでした。

2つ目の主な取組は、英語の取組です。これは、2020年の東京オリンピックの選手村を青森県に誘致するとしたら、どんな村にするかといった内容で、英語のプレゼンテーションを2分間程度行うといったプレゼンコンテストを行いました。

「Keppare Village」という名前のアイデアが最優秀となって、写真の右側にありますけども、川口塾長からメダルを授与されました。

主な取組の3つ目はスポーツになります。今までにないスポーツをつくり実際にプレーするといったことで、既成概念を取っ払って自由に発想しようといった取組を行いました。アイデアの1つとして、「フラフープドッジボール」というのがありまして、普通のドッジボールを2人1組でフラフープの中に入って行うというもの。また、「ドッジラグビー」、これはラグビーを行うんですが、外野からボールをぶつけて、ぶつけられたらその場でアウトといったことで、ボールが同じコートの中に2つあるような、ちょっと斬新なアイデアを実際にプレーしました。

「新しい考えが生まれることが楽しいです」とか、「ユニークな意見などに自分も影響された」「このメンバーでクラスを作れたらいいなと思うくらい皆と仲良くなれて本当に良かった」といった感想を中学生が寄せています。

塾生のその後の活躍ですが、三本木中学校3年の木下君は、読書感想文の全国コンクールで「三中はやぶさプロジェクト」というタイトルで応募したところ、サントリー奨励賞を受賞しています。また、西平内中学校の須藤さんが「失敗を恐れなくて挑戦して」というタイトルで、弁論大会で最優秀賞を取っているということで、早速ですけども、川口イズムが浸透してきているのかなというふうな思いを持っております。

来年度も更にパワーアップして開催したいと思っております。

以上、ひらめき創造塾のご説明でした。ありがとうございました。

(三村知事)

はい、ご苦労様でした。

それでは、次世代リーダー養成塾につきまして発表をいただきたいと思います。

(人づくりグループ 古田主査)

まずは、事務局から日本の次世代リーダー養成塾の概要について説明します。

日本の次世代リーダー養成塾は、経済界や地方自治体を中心となって全国の高校生を対象に日本だけでなく、世界に通用する人財の育成を目指したサマースクールです。

第11回目を迎えた今年度の塾には、日本の高校生170名に加え、アジア6か国から17名の高校生が参加しました。高校生達は、福岡県宗像市のグローバルアリーナをメイン会場に2週間、寝食を共にして切磋琢磨しました。

青森県からは男子3名、女子9名の合わせて12名の高校生が参加しました。

壮行式では、一人ひとりが知事に決意表明をして、知事からの激励の言葉を胸に福岡へと旅立っていきました。

講義には、国内外の文化、政治、経済など、様々な分野で活躍する一流講師が招かれ、学ぶことの楽しさ、人としての生き方がどうあるべきかを学んできました。

例年行っていたハイスクール国会は、アジアからの高校生を迎えたことから、アジア・ハイスクール・サミットとして行われ、「高校生が考えるアジアの未来」というテーマで将来のアジアを見据え、高校生ならではの柔軟な発想で今後、アジアの国々がどのように協力してより良い世界をつくり上げていくのかを議論しました。

2週間に及ぶ塾での活動を通じて、高校生達は一回り大きくなって帰ってきました。参加した高校生の皆さんが将来、日本、そして世界のリーダーとして活躍することを心から期待しています。

以上で事務局からの説明を終わります。

続いて、青森県から塾に参加した高校生を代表して、青森南高校2年古川鮎美さんから感想を発表してもらいます。

(青森南高校 古川さん)

こんにちは。青森南高等学校2年 古川鮎美と申します。

本日は、「私の人生の分岐点」題しまして、日本の次世代リーダー養成塾参加レポートを発表させていただきます。

まず目次です。本日は、「自己紹介」、「参加理由」、「2週間の主なスケジュール」、「心に残った講義」、「アジア・ハイスクール・サミット」、「リーダー塾から得た一生の宝物」、そして、「私の現在と未来」についてお話させていただきます。

「自己紹介」です。はじめまして、古川鮎美です。よろしくお願いします。

1997年7月16日生まれのかに座です。初夏に生まれたことから、私の父が釣り好きということで、魚の鮎から「鮎」という漢字をもらって鮎美と名付けられました。

趣味は買い物、旅行、生け花です。旅行が趣味ということで、リーダー塾も含め、今年も様々なところに旅行に行つて見聞を広めてきました。さらに生け花は、小学校3年生の時からずっと続けているので、現在、学校で華道部の部長をやっています。

特技はコーヒードリップなんですが、私は現在、「あおり若者プロジェクト クリエイト」という団体に所属しておりまして、そこで高校生カフェを事業の一環として行つてい

ます。おいしいコーヒーを入れるために、コーヒーカラーズさんという、実際のコーヒー店に行って研修を受けてコーヒードリップの方法を学びました。それからまって先日、オリジナルの自分用のポットを購入しました。

将来の夢は旅行好きなので世界中を旅したいです。

「参加理由」についてです。「夢を見つけない」「コミュニケーション能力を試したい」「日本やアジア各国の高校生との交流の輪を広げたい」、以上の3つの思いから参加を決めました。この時、私は、自分の未来を切り拓く力を求めています。

「2週間の主なスケジュール」です。大体、1日に講義が3つ入っていて、これは、1講義90分なので、正直、たまにちょっと眠くなっちゃったりもするのですが、ミンティアを講義前に噛んだりして眠気と戦いながら頑張って講義を受けました。

この写真の時は、朝ごはんとかを5分で食べなきゃいけないかったりとか、いろいろミスがあったり、洗濯物の時間が間に合わないとかで学生リーダーという、大学生の方から怒られたクラスとかもあったんですけど、そういうのも今では楽しい思い出です。

この緑の服を着た子は、中国から来てくれた留学生の子で、私、英語が喋れないんですけど、この子がすごく日本語が上手くて、それでもやっぱり思いが伝わらない時とかもなかなかあったんですけども、2週間過ごしていくうちに言葉の壁みたいなものを越えれたような気がしました。

更に、これは私のクラスだったんですけども、クラスごとで同じカラーのTシャツを皆で着て、綱引きなど、チームビルディングを行ったりですとか、これは味噌汁コンテストの洗い物の場面なんですけど、このリーダー塾に協力してくださっている「フンドーキン」という会社の社長さんが味噌を提供してくれて、福岡の名産品を使って味噌汁を作ろうというコンテストがありました。私達のクラスは味噌煮込みうどんというものをもっとスープっぽくして作ったんですが、九州の方には、ちょっと赤みそが口に合わず、白みそを使ったクラスが最優秀賞を取っていました。こちらが、青森の県枠で参加した塾生皆で撮った写真になります。

「心に残った講義」ですが、滝久雄先生という「ぐるなび」の社長さんなんですけど、「やらなければいけないことは、やりたいことにしよう」というお言葉が一番印象に残っています。その他にも未来構想力、未来の形をしっかりと決めることなど、私達高校生が今、必要とされていること。そして、これから生き抜く上で大切なことを沢山教えていただきました。

更に、好奇心を大切にしようということも話されていたのですが、今の私達の好奇心というのは、知識を詰めてから情報へ変換し、意識が変わるという方法が、今、私達の中では主流となっています。でも、本当にこれから必要なのは、まず情報に興味を持つこと。そこから意識が情報によって変えられて、「より多くの知識を読み取りたい」、「自分で吸収したい」というふうに思うのが、一番良いサイクルなのではないかと、私はこの講義を受けて感じました。

次は、「アジア・ハイスクール・サミット」です。こちらが、リーダー養成塾のメインイベントだったのですが、「将来のアジアをよりよくするためには」という壮大なスケールのテーマのもと話し合いました。こちらは、1日2時間、高校生でディスカッションをしながら考えを深めて、最終的によりよくするための案を提案するというものだったんですが、ディスカッションも白熱し、私はこの発表の前日は一睡もせず皆と資料を作っていました。

こちらが最優秀賞を取った案ですね。「シェアスクールを作って交流を深める」。これは様々な国の多国籍の方が1個の学校に集まってみようという斬新な意見です。また、「時間割を廃止し、自ら学ぶことの意義を見つける」といった意見も出ました。今の学びでは時間割というものに縛られ過ぎなのではないかという意見がこの意見に繋がっています。

さらに、「各国の代表が2週間のサバイバルゲームに挑み、お互いを理解し合う」という意見もあって、この各国の代表というのは、この発表したグループのメンバーによると大統領や首相など、その国のトップがこのようなサバイバルゲームを行うということで、すごく面白い発想だなと感じました。

このように、ホワイトボードにぎっしり意見が書かれていて、どのチームもどのクラスも濃い時間を過ごしていました。この時の進行や統率力が評価され、他のメンバーからの推薦をもらうことができ、私は副議長になることができました。

そして、私は、これが一番リーダー塾にいて大きかったなというふうに思っています。「一生の宝物」という題なんですけど、この写真は同じクラスのメンバーです。ここに行かなければ出会うことのなかった日本全国、またアジアから集まってくれた仲間達。この皆に会うことができ、私の人生観がすごく変わりました。皆、どの写真をとってもすごくいい顔をして笑っていて、かけがえのない大切な思い出です。今はSNSが大変便利になっているので、ここで知り合った仲間と意見交換して、何か学校での取組の時に意見を参考にしたりですとかしています。また、私達のクラスは12月に東京でクラス会を行いました。

ここからは、「私の今後のビジョン」についてお話します。先ほども申しあげましたように、私は、「あおもり若者プロジェクト クリエイト」に所属しております。そこで、「高校カフェ Seed」というカフェを新町の方で運営させていただいています。また、市内のイベントにスタッフとして参加したり、地域活性化、まちづくりについて考えています。また、大学進学や検定取得に向けての勉強も行っています。

このような活動を行っている今の私に辿り着いたのも、この次世代リーダー養成塾に参加して意識が変わったからだと考えています。

そして、私のこれからということですが、まず大学へ進学し、地域活性化、人財育成、教育現場の実態についての知識を深めたいと考えています。また、英会話力向上のための留学を現在、計画しています。ここは、本当に今年のリーダー塾がアジアからの留学生を招いたというのが、多分一番、大きかったんだと思いますが、自分の英会話力のなさにシ

ショックを受けて、もっと自分が話せるようになったらすごく楽しくなり、また自分自身を成長させる上で1つのツールになってくれるのではないかと考えています。

そして、以上のことを踏まえまして、私は将来、大好きな青森に貢献したいと考えています。このようなリーダー塾に参加させていただき本当にありがとうございました。

以上で私の発表を終わります。

ご清聴、ありがとうございました。

(三村知事)

ありがとうございました。

それでは次、立志挑戦の会の発表をお願いいたします。

(人づくりグループ 白戸マネージャー)

はじめに事務局の方から、立志挑戦塾について簡単に説明しましてから、今日は卒塾生で構成します、あおり立志挑戦の会の皆さんが来ていらっしゃいますので、現在の活動について報告していただきたいと思います。

あおり立志挑戦塾は、青森県、それから青森公立大学、そして卒塾生の皆さんで構成します、あおり立志挑戦の会、この3者で連携しながら運営している人財育成の塾でございます。

平成20年度から実施しておりまして、今年で7年目を迎えております。

塾生は20代から30代の社会人、年6回、土曜、日曜の1泊2日の合宿形式で塾を行っております。

特徴としましては、国内外で活躍しています講師の皆さんからの講話、そして塾生の皆さん同士が深夜、土曜日の深夜まで激論、意見交換をしています。

それから、塾の運営は、塾の修了生の皆さんがサポートしてくださっています。

塾では、塾が修了したのが終わりではなく、塾の修了が地域貢献へのスタートだという考えで、皆さん、大変いろんな積極的な活動をしてくださっております。

それでは、あおり立志挑戦の会の皆さんからご報告していただきたいので、どうぞ皆さん、こちらの方にいらしてください。

(あおり立志挑戦の会 秋元会長)

皆さん、こんにちは。あおり立志挑戦の会と申します。

私、会長を務めております秋元と申します。どうぞよろしく願いいたします。

まず、あおり立志挑戦の会ということでございますが、以下、ARCと略させていただきます。ARCの略は、あおり・立志・挑戦の会、頭文字を3つ取ってARCでございます。

本会は、会員それぞれがふるさとの青森を深く知り、ふるさと青森を思い、青森を元気

にする人財を増やす。会員が各地にて、この会のネットワークを活用し、経済や地域づくりのリーダーシップを発揮する。青森を離れてもふるさと青森を思い、ふるさと青森を語り、そして青森ファンを増やしていくということを目的に「あおり立志挑戦塾」のOB、卒塾生、そしてその関係者で構成されております。

現在、129名の会員がおりまして、業種は農業、金融関係、地方公務員から民間企業、多業種にわたって構成をさせていただいております。

また、県内各地に散らばっておりまして、右のマップを見ていただきますと、青く塗ってある場所が現在の卒塾生が加盟している市町村ということになっております。

県内の制覇までもう少しということで頑張りたいと考えております。

そして、会の主な活動でございますけども、こちらはあおり立志挑戦塾のサポート、こちらがまず一番大きなこととなります。そして、5期生を中心に構成されております、立志巡祭事業、6期生の卒塾生を中心に構成させていただきますA - f o r、4期生の卒塾生で構成されております、あおりマルシェ。そして、もっとユメココ事業、4つの事業を行っております。

そして、あおり立志挑戦塾で学んだことをまず我々それぞれが自分自身で行って学び、そしてあおり立志挑戦塾で学んだ、志について学んだことを次の世代へ伝え、そして実際に行動していくということを今の活動に反映をさせていただいております。

それでは、各事業を各担当者の方からお願いいたします。立志巡祭の発表の方をお願いいたします。

(あおり立志挑戦の会 和田さん)

5期生の和田と申します。よろしく申し上げます。

立志巡祭とは、ちょっと聞き慣れない言葉ですが、県内40市町村を清掃活動等を通じ、地域の環境整備と魅力を知り、交流を深める事業として行っております。

平成25年度にスタートしまして、今年で3年目になります。今年は第8回、田子町からスタートしました。田子町の方は、名産のにんにくの収穫祭がありましたので、そのお手伝いをさせていただきました。そして第9回、今別町巡祭では、新幹線開業に向け盛り上がる今別秋祭りの応援、清掃活動を行いました。第10回、黒石市巡祭では、観光客で賑わった中野の紅葉山の清掃活動を行い盛り上げて参りました。

特に今回、今別町の方の巡祭では、本当に町の方々が「よく来てくれた」というような形で「私達もどうやって盛り上げていいか分からなかったんだよ」というような声もいただいたんですが、「青森から頑張って、こうやって来ていただけるんだったら、おらほも頑張ねばまいね」というふうな言葉もいただいて、かなり盛りあげることができたのかなというふうに思っております。

今回、巡祭のあるべき姿を、見ることができたのがとても良かったと感じております。

平成27年は弘前市、鱒ヶ沢町、深浦町が決定しておりますので、今年は、その3カ所

を巡祭で回っていきたいと思っていました。

青森県には、とても素晴らしい出会いと、まだまだ磨かれていない原石が沢山あります。今年も発掘して、巡祭で青森県をどんどん盛り上げていきたいと思っておりまので、よろしくお願ひします。ありがとうございました。

(あおもり立志挑戦の会 小野さん)

A-f o r 代表の小野と申します。よろしくお願ひします。

私達の行っているA-f o r について簡単にご説明いたします。

A-f o r は、「青森県人が青森のために青森を愛する」というコンセプトのもとに活動しています。私達は知っているつもりだった青森、まだ知らない青森というものを知るために県内各地を旅しています。様々な地域を訪れて、実際に見て聞いて触って、その地域に住む若い団体であったり、活動している団体と交流することを目的として活動しています。

昨年は七戸、黒石を訪問し、町を歩きながら歴史を知り、企業を訪問して思いを聞き、実際にその地域で活動している若手団体と交流を続けてきました。

今年も藤崎、今別、むつ市での開催を予定しております。人と人が繋がることで、いろいろとやれることも大きくなっていくのではないかということで、とにかく楽しみながらということをもットーにA-f o r を継続していきたいと思っております。

(あおもり立志挑戦の会 田名部さん)

4期生の田名部です。あおもりマルシェの活動についてご説明いたします。

平成24年からスタートしたあおもりマルシェは、3年目を迎えることができました。

あおもり立志挑戦の会、農業トッランナー塾のメンバーが中心となり、青森の魅力を発信することを目的に農林水産物を中心とした産直市を不定期的に開催しています。

平成26年は来場者数が33,500人、出店者の総売り上げは940万円となり、イベントとしての規模を拡大することができました。また、青森畜産協会に参加していただいたり、三沢市でも地元の方と協力して出張マルシェを開催することができました。活動の輪も関わる人の輪も益々広がっています。

今年4年目になるあおもりマルシェですが、より一層、地域の人に愛されるイベントとして、魅力ある活動が続けていきたいと思っております。ありがとうございました。

(あおもり立志挑戦の会 秋元会長)

もっとユメココ事業でございます。この事業は、平成23年度から行っております。

様々な業種の集まりであるメンバーが学校へ出向き、高校生を対象に、地域で働いたり活動したりしてきた私達の人生観、職業観、そして国際観を伝えていきます。

これを機に高校生の方達が人生の志や職業への目標を意識するきっかけづくりになれば

という思いを持って行っております。

今年度は2回行いまして、1回目は五所川原農林高校様、そして2回目は青森中央高校様にお邪魔して実施させていただきました。

自分が高校生の頃は、学校の先生や親や親戚など、身近な人以外の職業人と話す機会や地元の仕事を知る機会もなかったもので、これからも是非、この事業を続けていきたいと思っています。

(あおり立志挑戦の会 小川さん)

塾の手伝いをしております小川と申します。私共、ARCでは、あおり立志挑戦塾において、これまでと同様、会からの講師派遣、塾への資金提供、そして塾でのファシリテーターなど、様々な形でサポートを続けております。

私自身も、昨年度は6期生、塾生としての参加をしていたんですが、今年度はサポート側として塾のお手伝いをさせていただいております。サポート側ではございますが、大変学びの多い機会となっていることは確かでございます。

今後も新たな仲間と共にサポートを継続させ、そして塾生の皆さんと共に沢山いろんなことを学んで参りたいと思っております。

(あおり立志挑戦の会 秋元会長)

そして、こうした塾での経験を踏まえて、下北若手人財育成塾、こちらのファシリテーターとしての参加ということも行っております。

また、個々の活動といたしまして、「ごみ拾い活動」、うちエコいいねコンテスト大賞受賞、現在、十和田の方を賑わしております「ウマジン」、こちらはグッドデザイン受賞賞、そして青森ねぶた師デビュー、こちらは手塚さんということで昨年デビューしました。

そして、「ままさプロジェクト」は、あおりブランドプレゼンテーション大賞受賞ということで、こちらは7期生が受賞いたしまして、現在、活動しているということでございます。

立志挑戦塾をきっかけとする動きは、青森県内全域へ広がっております。そして、あおり立志挑戦の会は走り続けます、ということでございますが、やっぱり立志挑戦塾、個々の一人それぞれの人生の立志でございます。それぞれの志を遂げてこそ、この青森県に、または立志挑戦塾のきっかけを与えてくださった三村知事に恩返しできるものだと思っております。

また、先は長いですが、今やった活動やそれぞれ個々の活動をこれからも継続して、最後、志を遂げて次の世代に繋げていけることが我々にとって必要なことかなと考えております。

今後とも、人と人との繋がりを大切にして、この立志挑戦、自分達の挑戦、これを続けていきたいと思っておりますので、何卒よろしく願いいたします。

以上でございます。

(三村知事)

ありがとうございます。では、奥入瀬サミットの説明をお願いします。

(奥入瀬サミット)

地域活力振興課の古川と申します。よろしくお願いいたします。

私からは、奥入瀬サミット2014についてご説明いたします。

奥入瀬サミットは、平成24年度から女性リーダーの人財育成とネットワーク化、そして十和田湖奥入瀬溪流のセミナーツーリズムの振興を目指しまして、全国自治体初の試みとして実施しているものでございます。

こちらはプログラムになるんですが、まず初日は法政大学総長の田中優子さんのご講演。田中さんは、東京六大学初の女性総長ということで、昨年4月に就任されました。

その後は、プレゼンタイムということで、参加者同士の自己紹介のお時間としました。そして夜は交流会。

そして2日目は、早朝アクティビティとしての十和田湖早朝カヌーツアーと谷川真理さん、マラソンランナーの谷川真理さんと走る早朝の奥入瀬溪流ジョギング、2つご用意したんですが、ちょっと残念ながらカヌーの方は天候不良により中止となってしまいました。

2日目午前は、株式会社ワーク・ライフバランスの小室淑恵さんの講演です。午後はワークショップ3つと、各種、アクティビティから参加者のお好みに組み合わせていただいて参加していただきました。更に夜は、あおもり地酒の夕べです。

最終日は読売新聞東京本社生活部長の宮智泉さんからの講演。

以上の内容で実施いたしました。

昨年は、9月5日から9月7日までの3日間。星野リゾート奥入瀬溪流ホテルで開催いたしました。このサミットは、主に女性リーダーを対象にしております。昨年も青森県内外の女性社長や女性管理職、女性の社員の方46名にご参加いただきました。

続きまして、奥入瀬サミットの様子をご紹介します。

左側のお写真は、田中優子さんのご講演の様子になっております。田中さんは、テレビなどでもご活躍されている方でいらっしゃいます。そして右側は、プレゼンタイムということで、参加者の方、それぞれの自己紹介をしていただきました。

続きまして、こちらは初日の交流会の風景になっております。この交流会には、講師の田中優子さん、谷川真理さん、宮智泉さんもご参加いただきまして、皆さんにメッセージもいただき、とても華やかな雰囲気になりました。知事も真ん中の方にいらっしゃいます。

そして、こちらは2日目の朝の様子でございます。左側は、谷川真理さんと走る早朝の奥入瀬溪流ジョギングの様子になっております。右側は、小室淑恵さんの講演の様子になっております。やはりタイムリーなワーク・ライフ・バランスをテーマにされている方と

ということで、とても注目度が高かったように感じております。

続きまして、こちらは午後のワークショップ3つの様子になっております。

こちらは、同時に進行しているアクティビティの様子でございます。

右下は、蔦の森ランブリングということで、こちらは絶好のコンディションだったそうで、参加された方の評判がとても高かったものになっています。

2日目、夜の地酒の夕べということで、交流会の一部なのですが、青森県の素晴らしい地酒を沢山集めたものになっております。紀行作家の山内史子さんをナビゲーターにお迎えいたしまして、日本酒の魅力などについてもお話していただきました。左側のお写真を見ていただければ分かるように、皆さん、地酒を飲み比べながら楽しく盛り上がっていただきました。

こちらは最終日の様子です。左側は宮智泉さんのご講演でございますが、宮智さんがこれまで見てこられた世界的に有名な、いわゆるラグジュアリーブランドといわれるようなところのブランドのお話や、日本の素晴らしいものづくりの企業などのお話をご紹介いただきまして、とても素敵なお話をしていただきました。そして右側はクロージングの様子になっております。

こちらは、参加者からいただいた感想の一部でございます。主催者としましては、沢山嬉しいお言葉をいただきまして、とても感謝しております。

それでは、実際にご参加いただいた武田京子さんからご感想を少しいただきたいと思います。

(一般財団法人武田報恩会 武田さん)

私、一般財団法人武田報恩会の方で事務局をいたしております武田と申します。

このサミットに関しましては、一昨年に小さな新聞記事で超一流の女性講師による女性のためのサミット、セミナーということで興味を持ちまして、それで早速、問い合わせをしてみました。

そういたしましたら、届きましたのが、このインビテーションカードなのですが、これを貰いまして、「え、何、この会は？」というふうに思いました。奇想天外というわけではありませんが、洒落た、中の案内も非常に洒落たものが入っていたんですが、まず女性といたしましては、「おぬし、やるな」みたいなオシャレ度、それと人を唸らせるセンスというか、そういうあたりでは完全にイニシアチブを取られてしまったよね、という感じがいたしました。誰がやっているの？何やってるの？って非常に期待が高まりまして、それで一昨年、去年と続けて参加をさせていただきました。

一昨年は、それこそ宇宙飛行士の山崎直子さんですとか、女性の品格をお書きになった昭和女子大学の学長の坂東眞理子さんなどの講演がございまして、非常に興味深いものでした。

去年に関しましては、法政大学の総長の田中優子さんから興味深いお話を伺い、その

次の日のワーク・ライフバランスの小室淑恵さんの話では、本当に目からボロボロと鱗が落ちました。決してこれは女性のためだけのお話ではない。男性に是非聞いてもらいたい。各会社の社長さん、これから県のトップの三村知事に是非聞いていただきたいという内容でございました。後で短く紹介させていただきたいと思います。

参加者は、先ほどご紹介がありましたように、県内外の女性のリーダー、管理職、それからご自分で起業されている方も沢山いらして、特に東京で働いた後、青森にお戻りになって各地でいろいろ自分の事業をなさっている、そういうUターン組が沢山いらっしゃるということを知って、とても嬉しく思いました。

そういう女性が働いていると、どうしても自分のお手本となる方、理想となるようなロールモデルを探すわけですが、今、いらした超一流の講師陣の方達、いろんな意味でロールモデルをはっきりと示してくださったと思っております。

また、自己紹介の場がございましたが、その中で、自分と同じ業種の、他から来ていらっしゃる管理職の方ですとか、そういう方といろいろとお話を深めてネットワークづくり、これも非常に成功しているのではないかと思います。それこそ、「旦那さんの理解はどういうふうになっているの?」とか、「部下の男の人をどうやって怒っているの?」とか、「同性をどういうふうに扱っているの?」とか、そういう非常に、同じ立場でないと言えないような話を親密になさっていたのがとても印象的でした。

先ほどの小室さんのお話に戻るんですが、彼女のお話の要点といたしましては、決して女性だけのためじゃなくて、皆のために残業を無くしましょうよというのが最大のポイントなんです。どうして残業が無くなればいいのか。皆と一緒に定時に帰れるということは、その後の時間を自分のスキルアップに使えるし、勿論、保育だったり介護に参加もできるし、また家族とのコミュニケーション、相互理解の時間もとれるし、皆が一斉に定時に帰る、これを目指して頑張っていきましょうよということなんです。

じゃ、どうしてそういうことができるの?といった場合に、彼女は具体的な方法としましては、朝・夜メールというものを掲げていました。

朝に部下が上司に自分は今日一日こういう仕事をするんですというメールを送るわけですね。そして、その日の夜に、「このうちのこれはできました」、「これはできませんでした」というメールを送る。ここで一番重要なのが、何でできなかったのかということ。別にこれはその人を責めているわけではなくて、「どうして、どうして、どうして、どうして、どうしてって5回繰り返して考えてご覧なさい」って小室さんはおっしゃっていらしたんですけども、そうすると、それが自分が文章作成をするためのスキルが、ワープロの使い方のスキルが足りなかったことがあるかもしれないし、何かの情報を探するのに時間をとっちゃって、自分の整理能力が良くなかったということもあるかもしれないし、いろんなことが出てくる。つまり、現状把握を皆でしましょう。そのことによって、ひょっとしたら優先順位の付け方に誤りがあったんじゃないかということに気づく。そうすると、上司の方が部下に対する指示の出し方というものにも関わってくる。

また、所用時間の予測の立て間違いということで、各人の予測の立て方にも問題があったんじゃないか、同じような仕事が、名前が違って各人がやっていたりするものを一緒にまとめることができるんじゃないか、また、自分があまりにも沢山仕事を抱え込んで、上司の人が、この仕事はもっとこっちに振り分けた方がいいよねということが分かるんじゃないか、そういうようなことをいろいろと具体的に示してくださいました。

要は、効率的に時間を使って、それで成果をあげる仕事の仕方、それを目指しているわけで、なるほど、小室さんの講義には900社以上の講演の依頼があるそうです。

こういう素敵な講師を招いてくださったことに本当に感謝しています。是非、これからも素晴らしいものにしていただきたく、奥入瀬サミットに関わったスタッフの皆さんに本当にお礼を申し上げたいと思っております。

これからもどうぞ頑張ってください。

(三村知事)

どうもありがとうございました。

それでは、グローバル人財養成セミナーについての説明をお願いします。

(人づくりグループ 福士主幹)

地域活力振興課の福士です。最後になりましたが、グローバル人財養成セミナー2014の開催概要についてご説明いたします。

まずセミナー全体の概要ですが、こちらはグローバル人財養成セミナーの特色・ねらいとしまして、スキル・ノウハウよりも、むしろ国際的な視野を持って県の強みを積極的に売り込んでいくマインドを醸成することを目的に実施しております。

また、重要な要素といたしまして、米軍基地や外国人が多く住むという三沢市の環境、三沢の持つ地域資源を最大限に活用することとしております。

今年度の開催日程でございますが、全部で3回、9月、10月、12月と、いずれも土日の1泊2日で実施いたしました。

事業の対象といたしまして、県内の若い人財、20代から30代の学生・社会人を対象としております。

セミナーには23名の受講生が参加いたしまして、三沢市だけでなく青森市、弘前市、八戸市など、県内各地からの参加がありました。

大学生につきましては、昨年度に引き続き4名の参加があったところでございます。

こちら、セミナープログラムの構成でございますが、世界を知る、日本を知る、青森を知る講座を通しまして、マインド醸成というものを重視しつつも、オール英語によるコミュニケーション能力を高める講座、三沢基地内でのフィールドワーク、在住外国人や米軍基地関係者との英語による対話や交流会など、三沢の地域資源を活用しながらスキルの部分のフォローや異文化交流を意識した構成としております。

プログラムの詳細でございますが、全3回、土日の1泊2日のプログラムで、この緑色の着色の部分が、世界、日本、青森を知る、黄色がコミュニケーション能力の向上講座、ピンク色が交流会となっております。

全3回を通して、緑色の座学につきましては、第1回で世界情勢や海外の生活、また日本の置かれた状況などの世界について。第2回では、外国から見た日本人、日本といった姿、いわゆる日本を知る。第3回では、青森を知るということで、それぞれ講師をお招きして実施しております。

黄色のコミュニケーション能力向上講座につきましては、米軍基地内の大学からアメリカ人の講師をお招きし、ALT等のサポートを入れながら、英語による3回シリーズの講座として実施しております。最終回の第3回では、1日目に基地内でのフィールドワーク、2日目に発表するなど、実践的な内容で実施しております。

ピンク色の交流会につきましても、交流は全て英語で行いまして、第1回と第2回の2回実施しております。

また、紫色の部分、受講生同士の意識の共有や挑戦意欲の維持・向上を図るため、各回ごとにグループディスカッションを実施しております。

こちらが世界、日本、青森を知る講座でお呼びした講師の方々でございます。

国際大学副学長の信田智人氏、元JICA東北支部長の小野修司氏、本県に来られたことのある在札幌米国首席領事のジョエレン・ゴーク氏など、多様な観点からのお話をしていただいております。

コミュニケーション能力を高める講座につきましては、米軍基地内大学教授によるオール英語の講座としまして、第1回、第2回ではコミュニケーションや文化的な違いといった座学の講座により、基礎的な知識を習得するとともに、最後の実践、フィールドワークに向けグループに分かれて準備を行い、第3回で米軍基地内のBXでのフィールドワーク、青森の観光、県産品、芸術などについて、それぞれテーマを設けてアンケートを行い、最後に発表をしております。

こちらが、交流の様子でございますが、第1回は、三沢市国際交流教育センター内で在住外国人の方をお呼びして交流をし、第2回は首席領事のジョエレン・ゴーク様の講演会に続く形として、基地関係者等との交流会を基地内で実施しております。いずれも全て英語で交流をしております。

グループディスカッションでは、各回ごとの振り返り、また、最後の第3回では、全体の振り返りと受講生それぞれのこれからの目標設定、目標宣言をしてセミナーを修了しております。

参加者それぞれ、講師の方ですとか、外国の方との交流を通して新たな意識づけがなされており、これからの活躍に期待しているところでございます。来年度も受講生のフォローも含めて、引き続きセミナーを実施していきたいと考えております。

どうぞよろしく願いいたします。

以上でグローバル人財養成セミナー2014の説明を終わります。

(三村知事)

ご苦労様でした。それでは、意見交換に移りたいと思います。30分ほど時間が過ぎます。

議題の(2)でございますが、「次代を切り拓く人財の育成」というテーマはありますが、これに係わらず、今日の発表を聞いてみて、ここがよかったとか、こういうことはどうだとか、それぞれ思っていることがございましたらお話いただきたいと思います。

(県漁業協同組合連合会 小出専務理事)

2つお尋ねしたい点があるんですが、未来ひらめき創造塾のところで説明をいただきまして、いろんなお土産づくりとか、新しいスポーツの考察があったんですが、その中でのお土産づくりでの作品をどこかで紹介しているのか、あるいはどこかで作って売り出す計画というのはあるのかということ。それともう1つ、新しいスポーツを考えたようですが、どこかの学校の現場で実践する予定があるとか、そういうのがあったら教えていただければと思います。

(三村知事)

事務局で分かるかな？

(人づくりグループ 成田主査)

まず、お土産の方なんですが、どこかで売ったりとか、そういうことは実際していないんですが、川口塾長の方からは、是非、次回やるのであれば、例えば、新青森駅の観光客に提示してみても、スコアを競うような取組をしてみたらどうかというような提案がありましたので、検討しているところです。

スポーツにつきましては、学校でやっているということはないんですが、塾でやったことを昼休みとか、実際にやってみるということは持ち帰って可能かなと思っておりまして、そういったことで遊びに繋げていけたらと考えています。

(三村知事)

よろしいですか。

確かに、中学生がチャレンジして、いろいろな取組をしたので、何かできれば面白いなと、私も思いました。

あと、どなたかございませんでしょうか。

小川さん、いろいろ仕切ってくれているので、何か思っているところがあれば。なんでもいい。今日の発表等について。

(あおもり立志挑戦の会 小川さん)

ご指名、ありがとうございます。

今日、いろんな発表がありまして、私自身もあおもり立志挑戦塾で、昨年、6期生として塾生でしたし、今年度はサブ側として参加させていただいて、先ほどの発表でも申しましたように、大変学びのあるサポートをさせていただいております。是非、今後も、ずっとこういう取組を県でやっていただきたいと思っている次第でございます。

そして、他の取組につきましても、南高校2年生の古川さんですよね。私よりも20歳以上も若くて、自分の娘といってもいいんじゃないかぐらいの方がとても素晴らしい発言をされていて、これからどういうふうに進んでいくか、まだまだ模索中だと思えますけども、青森で生きている人間として、すごく応援していきたいと思いましたが、これからの取組もやはり続けていっていただきたいと思っております。

以上です。

(三村知事)

各年代というか、いろいろやっているんですけど、こういったことを続けた方がいいという感じですか。

(あおもり立志挑戦の会 小川さん)

そうですね。実際、私、民間で働いて、会社を経営しておりますけども、正直、あおもり立志挑戦塾というのを県庁のホームページで最初に初めて見て、私は自分で参加しようと思って参加したんですが、県でいろんなこと、人づくりというところに観点を置いて、こんな企画をいろいろやっているんだなということを知らなかったんですよね。

実際、参加すると、こんなに沢山取り組まれているということが分かって、やはり、今、参加している人間は分かりますけども、参加していない方々にどういうふうに伝えていくべきかなど。派生していくべきなのか。そして、若い世代にどう繋げていくのが大事なのかな、というのを私自身も考えているところです。

(三村知事)

ありがとうございます。

今、こういったご意見がございましたけども、うちの地域活力振興課長としてはどう？

(地域活力振興課 若木課長)

人づくりを担当する課長としまして、貴重なご意見をいただきました。

対外的にPRが足りないというようなご指摘もございました。私共、こういう会議とかを通じて、広く周知しているところなんですけども、やはりいろいろマスコミさんですか、

そういったところを含めて、私共がやっているような人づくりに関する取組を更にもう少し広くPRしていかなければいけないかなと反省いたしましたので、来年度、そういった方向で更に発信力を高めていきたいと考えております。皆さんからもそういった観点からいろいろご協力いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

(三村知事)

ということでよろしく願います。

あと、どなたかご発言いただければと思いますが。

小川校長先生、南高校の古川さんがすごく良かったと思うんですが。

(県高等学校校長会 小川会長)

次世代リーダー養成塾ですけど、毎年、高校生が参加しているわけですが、英語を母国語としない中国とか韓国、タイとか、その人達の英語力というものは相当なものだったと実感していると思うんです。ですから、やっぱり皆さんが感じたように、もっともって自分で英語力を高めていかなければならないというふうに感じたと思います。

今はコミュニケーションは当然であって、それから更に意見の交換、ただ交流するだけでなくでもう1つレベルアップしていかなければならない時代だと思うんです。

将来、これから青森に帰ってきて、青森に貢献したいとはいえ、今は知事さんが積極的に先頭に立ってやっている青森の農水産物の海外進出ということで、やっぱり通訳を介して物を売なのか、自分が先頭に立って直接向こうとやり取りをするのかでは、全然違うと思うんです。

そういう意味では、これから進学して様々、いろいろ力をつけて、将来、こっちに帰ってきた時に、あなた達の世代が先頭に立ってやっていければ、やはり青森のために素晴らしい力になるというふうに考えております。

ですから、あなたがやってきたことを皆さんに伝えて、そういう仲間を引っ張り込んで、青森の将来の力になってくれることを強く期待しているところです。頑張ってください。

(三村知事)

校長先生から、エールがあったので、古川さん応えてみよう。こんなに張り切って校長先生が言ってくれたから。

(青森南高校 古川さん)

コメントありがとうございました。

校長先生がおっしゃったように、本当に中国、韓国、マレーシア、様々なところからの留学生の方と交流したのですが、やっぱり、これは青森県の学生だけでなく、やはり日本の学生がまだまだ英語力が足りないなということを実感しました。

それと同時に、逆に日本の学生は海外からの留学生の方達よりも、計画的に物事を考える力はかなり誇れる力なんじゃないかなと、私は感じました。

ディスカッションするうえでも、日本からの学生、高校生はかなり筋道立てていろんな意見を述べる事ができていたので、そこを伸ばしつつ、英語力も兼ね備えて、これからの日本に貢献していけたらなと、高校生の視点から思いました。

ありがとうございました。

(三村知事)

すごいな。ありがとうございます。あと、どなたかございませんでしょうか。

(あおもり立志挑戦の会 田名部さん)

ARCの4期の田名部と申します。

私、本当に立志に入れて良かったと思っています。今、年齢は42歳なんですが、入った時は38歳でした。そこで学んだことというのは、お掃除、挨拶、ありがとう、OAAと呼ばれることなんですが。本当、38歳にして、分かっているんだけどできていない。ということを知ることができて、だから本当に何と言いますか、そういう教育ってすごく大切だなということを38歳で知りました。

あと、塾でディスカッションをしたりとか、というのも実際そういうのをやったことがないんですよね。それと、私、こういう感じで発表するのが苦手な方なんですけども、こういう発表するというのもなかなか今まで経験がなかったことです。

だから、本当に思うのが、もっと、もっと、10年前とか20年前とか、もしくは小学校の時とかにこういうことが学べれば、すごい人生違ったんじゃないかなと思ったりもしていました。

あとは、ARCで今、自然な形として出てきているのが、「青森のことをもっとよく知って、その魅力を感じて青森を好きになり、それを皆に伝える」というのが、ARCの講座になったんです。そういう意味で、本当に青森のことを知らない。皆で飲みながら議論するんですね。青森にはもっと良いものがあると。良い文化があるし、良い人がいる。それを知り合っていくことですごい成長できているなと思います。

だから、そういう青森のことを知るというのも、もっと小さい時、小学生、中学生のレベルで勉強できれば、もっと青森を好きになれるんじゃないかなというのを、今、思っています。そういうところをキーワードにして、立志挑戦の会をもっと盛り上げていきたいと思っています。

(三村知事)

ありがとうございます。

教育長がいるので、後ほど話をしてもらいますが、我々も故郷のことを知る、故郷教育

というのは、すごい大事なことだと思っています。

そして、立志もそうですけども、各世代、各年代ごととか、女性、農業、漁業などのジャンルとか、それぞれやっぱり、もう一度学んだり、人と人との知り合うチャンスっていうものは、絶対青森県には必要なんじゃないかなと考えています。財政的には厳しい部分もありましたが、ただ、人財育成の分野、人をつくるということは、最も重要なインフラだと思っていますいろいろやってきました。是非、次の世代のためにもいろいろ協力してください。

それでは、話がございましたので教育長。

(中村教育長)

皆さんの取組、自分が変わっていったその瞬間、何故そう思ったのかみたいなことを山発表していただきまして、本当に感動して聞いておりました。

もっと小さい時からこういう自分になれば良かった、そういうのが学べれば良かったのというふうに思っているということが、実は物すごい大事なことでございます。

そういうことを小中高等学校、学生、児童・生徒の時から、それをやるためにどうすればいいのかということでキャリア教育、「世の中との関わり」や「現在、どういうことが課題になっているのか」「こういう人がいて、この人は何を今考えているのか」ということを授業の中に取り入れ、授業の質を変えていこうということを県全体でやっております。

それを主体的、協働的な学びということを経験の中に取り入れていく。あるいは、探究的な学びとか。文科省では、アクティブラーニングという形で進めていますけど。地に足のついた、そういうチャンスが一杯あって、次々自分を変えていけて、「あっ、これ、自分って変わったぞ」というふうに思えるような、そういう学校教育をこれからも社会の皆様と一緒に、地域の皆様と一緒に取組んでいきたいと思っておりますので、本当に今日は素晴らしい発表をありがとうございました。

また、今後も教育へのご協力をよろしくお願いいたします。

(三村知事)

ということで頑張ってまいります。あと、どなたかございませんでしょうか。

それでは、高専さんと弘前大学さんに、今後の地域の発展のために、人づくりとか拠点づくりでお話いただきたいと思っております。

(八戸工業高等専門学校 工藤副校長)

高専の工藤でございます。

先ほどから大変貴重なお話をたくさんいただきまして、ありがとうございます。特に、日本の次世代リーダー養成塾に参加された古川鮎美さんのお話の中に、大変勇気づけられることがございました。

と申しますのは、「地（知）の拠点整備事業」が、弘前大学さんと本校で動き出しました。本校では、これに合わせて27年度から学科改組や4学期制に移行します。4学期制のキーワードはアクティブラーニングです。

このアクティブラーニングの進め方に関しまして、先ほど古川さんから非常に参考になるお話をいただきました。どういうことかと申しますと、「授業などで知識を身につけてから情報を吸収し意識を高めていく教育方法ではなく、先に様々な情報を得てからそれに関係する知識を吸収していく方法もあるのではないか。そのためには時間割を廃止し、自ら学ぶことへの意味を見つける機会を作る方法もあっていいのではないか。」という内容のお話がありました。

本校でも全く同様の考えがありまして、時間割の無い日課で9月と10月に自主探究学習をしてもらうもので、科学技術の範疇にあるテーマを自分で見つけだし、探究活動を実践し、まとめて発表することについて、2か月間で行っていきます。まさに、様々な情報にぶつかって、考え、まとめていく過程において、従来から行われてきた一般的な授業における知識教育の重要性について、認識させたいという思いがあります。

本校におきましては、「地（知）の拠点整備事業」やアクティブラーニングなどの教育改革を進めることにより、青森県の人づくりの一端をお手伝いさせていただけるものと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

（三村知事）

続いて弘前大学さん、お願いします。

（弘前大学 吉澤副学長）

弘前大学の吉澤でございます。青森に住んでいて良かったなと思いました。素晴らしいお話でした。

先ほど、財政に関するお話しがありましたが、私は、人づくりこそ大事な分野だと思います。ここをちゃんとやっておかないと、ボディブローのように効いてくる。今、そのために非常に良いことをやられると思います。良いことを良くいうのはいいことだと思います。大したことないって、よく言われるんですが、そんなことはない。良いことはもっと主張してよい。

私は、これから弘前大学は、グローバルな視点を持って地域の課題を解決する学生を育てていくべきと考えています。そこで講師を募集しています。地域の方を募集しています。是非、皆様方に学生の先生になっていただきたい。

また、私達は、そういう学生を育てて、小学校から青森の良さを伝えられる小学校の先生を育てます。地域のことをよく分かった、そしてグローバルな視点を持って地域に貢献するような学生を育てて参ります。

そこで皆さんと一緒に、一方通行ではまずいので、どういうニーズがあって、どういう

人が欲しいということを知りながら、ちょっとキザな言葉かもしれませんが、私達が心臓のポンプとなって若い学生を熱い血潮として送り込みますので、是非鍛えてください。

私は学生によく言うのですが、頭の強い学生になって、少々叱られてもへこたれないような人間になって欲しい。最近の学生は、すぐ「へこむ」って言うんですね。そんなことでへこんでいたら、すぐいなくなっちゃいます。少々叱られてもへこまない。そうしたら指導がすごくしやすい。

そうして、叱られて喜ぶと言えば変ですけど、そういう先生を育てたいと思います。あの先生から叱られたら、すごく嬉しいというような先生を育てていきたい。

そして、あともう1つ。やっぱりウイットさが必要になってくる。何か合理的だけじゃなくて、何か辛いところが分かる人を育てたいと思います。そういう人を皆さんと呼び込みたい。それは、先ほども言いましたように、一方通行じゃ駄目です。

私達は、これから「地（知）の拠点整備事業」や、県と市と企業とか、学校の皆さんと色々なことを一緒にやればもっともっとよくなるはずだと思います。一人よがりじゃなくて、先に進んでおられる皆さんのお知恵を拝借して、私達は後追いですけども、是非一緒にやらせていただきたいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

（三村知事）

ありがとうございます。

私共の立志の会のメンバー、なかなかユニークですので、何かの時に意見交換とか、是非、学生さん達とやっていただければありがたいという思いでございます。

もうお一方、どなたかございませんでしょうか。

それでは、私としては、銀行協会の方で、本当に人財育成含めてご支援いただいていると思っておりますので、どうでしょうか。

（県銀行協会 須郷常務理事）

私共の方、銀行協会といえども、皆さんご存じのようにCSR活動ということで、各企業でもって地域の人財育成という部分でそれぞれの活動をされていると思います。

私共、銀行協会というのは、ざっくりばらんに言いますと、県に1つというような形であります。

我々の上部団体として、全国銀行協会というのがございます。皆様の今日の話題までは、まだいっていないと思うんですが、実はどこでも出張講座といいまして、金融関係のことで人生プランとか、いろんな形で社会に出て、あるいは大学に行って役立つような金融知識、そういったものをやろうということで進めていました。

実は昨年12月の時、どこでも出張講座ということで、全国の高校と中学校、こちらの方にこういう講座がありますということでご案内申し上げまして、先月の28日、南高

校さんの3年生の方々にやらせていただきました。レベルからいくと、まだ皆さん方がやっている取組の手前にはなると思うんですが、我々の協会でする人づくり、人財育成の一環だと自負して、そういうような形で進めておりましたので、皆さんの中学校、高校のところにはご案内が行っているとは思いますが、活用できるのであれば、是非活用していただければと思っております。

今日は大変ありがとうございました。

(三村知事)

恐縮です、急に発言を求めまして。

そろそろお時間でございますが、どなたか特にとということになれば、これで意見交換会を締めさせていただきたいと思えます。

では、進行を事務局にお渡しします。

(司会)

どうもありがとうございました。

それでは、最後に会議を終えるにあたりまして、知事からご挨拶申し上げます。

(三村知事)

本当にお忙しいところ、ご参集賜りありがとうございました。

それにしても、鮎美さん良かったね。発表もしたけど、ちゃんと、考えていたことが高専で実現するとか、あるいは青森高校の校長会会長に「頑張れ」って言ってもらって良かったね。

1人だけに良かったねっていうのも、すいませんが、良かったねということ、良かったねと言うのが大事だと今教わりましたので。

人財育成、人づくりは、すぐに結論が出ないわけで、この分野、人づくりということについては、知事として、とにかく慌てないで、先ほど、各年代というか、各ジャンルって言いましたけども、それぞれにいろんな仕組みを作りながら、それぞれに進めていく。それを立志みたいに農業の方とかと組んでみたりとか、そういうことが出てくるっていうんでしょうか、それぞれに良い予算の使い方と自分としては思っています。財政再建や攻めの農林水産業とか、いろんなことをやっていますが、一番、政治として力を入れるべきは、次を担う人に対して、どれだけ我々として心を砕いて、仕組みを作るかということだと思っております。

今後とも、私共として、今、進めている様々なジャンル、様々な年代の人づくりの仕組みに、さらにプラスのアイデアを持って考えていきたいと思っております。

そういったことの長い年月の積み重ねで、青森県としての人財育成はどうであったかという結論になると思うんですが。あとは、そういうわけで、鮎美さん、頑張ってください。

ということで、今日は本当にありがとうございました。

終わらせていただきます。

お世話になりました。ありがとうございました。

(司会：若木課長)

ありがとうございました。

皆様、本日お忙しい中お時間をいただきまして、本当にありがとうございました。

今後とも、私共の取組に関しまして、ご協力のほどよろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして、第8回青森県人づくり戦略推進会議を終了いたします。

(三村知事)

どうもありがとうございました。